

広域ドッジビーコンペティション

第3回関東大会 2017



<大会報告書>

2018 年 3 月 1 日



日本ドッジビー協会

【大会の概要】

- 名 称 広域ドッチビーコンペティション 第3回 関東大会 2017
 Kantoh DODGEBEE Competition 2017
- 日 時 2018（平成30）年2月18日（日曜日） 9:00～17:30
- 場 所 東京武道館 〒120-0005 東京都足立区綾瀬 3-20-1
 TEL：03-5697-2111
- 主 催 一般社団法人日本ドッチビー協会
- 後 援 東京都 / 一般社団法人東京都スポーツ推進委員協議会
- 協 賛 文化シャッター株式会社
 東京キリンビバレッジサービス株式会社
 ワタミ株式会社
 株式会社ミカサ
 株式会社バンダイナムコエンターテインメント
- 協 力 特定非営利活動法人 日本ダイバシティ・スポーツ協会

【お問合せ先】

一般社団法人日本ドッチビー協会 DBJA
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-46-302

TEL : 03-3264-3626
FAX : 03-3264-3627

Mail : support@dbja.jp

担当 : 稲垣 敬雄（イガキ 効才）

【参加チーム一覧】		人数
《ディスクドッチ》		
〈小学生低学年部門〉	6チーム	
汐入一号		12
ウエストシックス Jr.		14
山吹K		14
Speed Shot		15
大乱闘中 Clover		16
エンジェルス		11
〈小学生高学年部門〉	11チーム	
ウエストシックス A		15
ウエストシックス B		15
大乱闘中 I		18
大乱闘中 II		15
トライファイターズ		16
NDCそげキング		13
TTV戦桃丸		13
M.D.Cペディ		12
犬蔵∞（むげんだい）		13
犬蔵ストロング★IK		13
調布エース		16
〈一般部門〉	6チーム	
ミレニアムベビーズ		10
NDCベックマン		11
M.D.Cウィル		12
Creeks		12
東京選抜チーム		15
香港代表隊		11
《ゴールドドッチ》	4チーム	
style		8
NDCヤソップ		10
ちゃばんず		7
M.D.C		8

【大会参加者数 一覧】

●参加選手総数 344名

●大会関係者総数 44名

内訳 /主要スタッフ 13名

/協力スタッフ 36名

/来賓その他 12名

◆大会関与者総合計 388名

◆観戦・引率保護者数 約450名

大会関係来場者総合計	約840名
------------	-------

【大会最終順位】

ディスクドッジ小学生 『低学年』 『高学年』

優 勝

大乱闘中 Clover

大乱闘中 I

準優勝

ウエストックスJ r.

ウエストックスA

第三位

山吹K

大乱闘中 II

ディスクドッジ 『一 般』

優 勝

M. D. C

準優勝

NDCベックマン

第三位

ミレニアムベビーズ

『ゴールドドッジ』

優 勝

ちゃばんず

準優勝

s t y l e

第三位

M.D.C

【ディスクドッチ競技方法】

●小学生低学年部門 6チーム

予 選 : 3チームで構成した2つのリーグで総当たり戦

決 勝 : 各予選リーグの1位/2位の2チームがトーナメント戦へ進出
各予選リーグの3位の2チームがFM（フレンドマッチ）へ

●小学生高学年部門 11チーム

予 選 : 4・4・3チームで構成した3つのリーグで総当たり戦

決 勝 : 4チームリーグの1～3位と3チームリーグの1/2位の
8チームが決勝トーナメントへ進出
残り3チームはFM（フレンドマッチ）リーグへ

●一般部門 6チーム

予 選 : 3チームで構成した2つのリーグで総当たり戦

決 勝 : 各予選リーグの1位/2位の2チームがトーナメント戦へ進出
各予選リーグの3位の2チームがFM（フレンドマッチ）へ

【ディスクドッチ競技ルール】

基本的に日本ドッチビー協会制定の公式ルール

以下項目について、本大会ルールとして制定

- 試合人数： 小学生部門＝13名、一般部門＝10名
あらかじめ、不利となることを了承のうえ規程人数以下での
対戦も成立するものとします。

- 試合時間： 全試合 前/後半 各＝3分30秒

- 同点勝敗： 予選リーグは引分け、トーナメントはPT戦で決着
決勝戦のみ、3分1本通しの延長戦

●予選リーグ戦の順位決定

本大会すべての部門におけるリーグ戦の順位は以下の優先順で決定

- 1) 勝点の大きいチーム
- 2) 得失点（総得点数マイナス総失点数）の大きいチーム
- 3) 総得点数の多いチーム
- 4) 総失点数の少ないチーム
- 5) 直接対決での勝利チーム
- 6) ディスクフリップをおこない、権利を得たチーム を上位

【ゴールドッチ競技方法／ルール】

●競技方法

2017シーズンの上位4チームによるトーナメント戦

1 回戦	1	➡	2017シーズン2位	vs	3位
1 回戦	2	➡	2017シーズン1位	vs	4位
3 位決定戦	3	➡	1 の敗者	vs	2 の敗者
決 勝 戦	4	➡	1 の勝者	vs	2 の勝者

●試合人数： 全試合＝5名。

●試合時間： 1 2 3 ➡ 前／後半各＝7分 ハーフタイム90秒
決 勝 戦 ➡ 前／後半各＝9分 ハーフタイム120秒

●同点勝敗： 1 2 3 ➡ PT戦で決着します。
決 勝 戦 ➡ 5分一本通しの延長戦

【競技スケジュール】

全ての対戦結果は、別紙結果表をご参照ください。

【参加賞】

協賛社様ご提供の参加賞

※配布 ～ ①は受付時、②③は15時30分以降

- | | |
|---------------------|-------------------|
| ① 東京キリンビバレッジサービス(株) | 555ml スポーツドリンク |
| ② 文化シャッター(株) | シャープ&ボールペン |
| ③ ワタミ(株) | 系列全店使用可能 500円お食事券 |
| ④ DBJA | ドッチビーデザイン・ハンドタオル |

【講 評】

2月18日、日曜日、朝から晴天の中、344名の選手、引率ならびに観戦の保護者、さらにスタッフ他、関係者約500名、合計約850名が足立区綾瀬にある東京武道館に集いました。

本大会は広域シリーズとして今回で通算8回目、関東大会としては3回目となる「広域ドッチビーコンペティション 第3回関東大会2017」と称して開催されました。



に交流する姿が数多く見られ、楽しそうに過ごしていたことは大変嬉しく、最も印象に残ることでした。



競技種目はディスクドッチをメインとして小学生低学年・高学年・一般の3部門で募集をおこないましたが、最も遠くは香港からご参加をいただきました。香港の皆さん、ありがとうございました。香港遠征チームはドッチビーを通して日本のチームと積極的



また、広域コンペティションの基本要件である複数種目の開催という側面から、ゴールドドッチをおこないましたが、こちらは参加募集をせずに、2017年シーズン過去3戦（6・9・11月に麹町で開催）の成績上位4チームを招待する形で出場チームを決定しました。主催者の意図として

ディスクドッチのみをおこなうチームの皆さんに質の高いゴールドドッチゲームを見せるという趣向でおこなったもので、事前にキャプテン・ミーティングをおこない、選手・審判双方にとってのルールとジャッジの確認をおこない、プレーの質についても一定の水準を

保つべくディスカッションをおこなうなど、過去にない準備をおこないました。



運営面においては同会場でおこなった昨年大会の

反省点として、
会場が武道館
であることで、
靴の履き替え



が観戦者も含めた全ての入場者に適用されるため、朝イチの入場時に一瞬のことではありましたが混乱が生まれました。これはケガ等の危険性も懸念されることもあり、今回はエントリー順による整列入場制を導入したことにより、大変スムーズな入場となりました。



進行は予定時刻通りに開会式がおこなわれ、来賓として会場地の

足立区で区議会議長を務めていらっしゃる、
かねだ正様にご挨拶をいただいた後、大会

エントリー 1 番目のチーム
「汐入一号」のメンバーに選
手宣誓をお願いいたしました。その後、審判長および主
催者より大会諸注意事項を
伝え、参加選手・スタッフ全



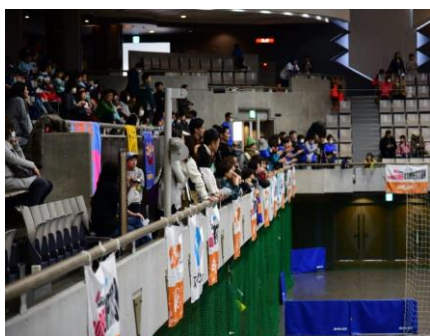
員による記念撮影をおこない開会式は終了しました。



競技の皮切りはゴールドマッチ1回戦から。ディスクマッチ3面分のアリーナ面に色違いのラインテープを使用して正式フルサイズコート20×40㍍、1面をフィールド中央に設定して、第1試合をシリーズ2位 vs 3位、続いて第2試合は1位 vs 4位の2ゲームをおこないました。出場4チームが全て上下揃ったユニフォーム姿で対戦する姿は、現状でのドッチビー大会としては珍しいことと言え、整然かつ壮観に感じることができました。



ゴールドマッチ終了後、ディスク
ドッチ3部門の予選リーグを
3コート同時進行で開始。一挙に
会場は大きな声援に包まれ、たと
えるならば「会場全体が突然、動
きだした感覚」に囚われました。



チームは本当にスローが上手！またそれをクリ
ーンにキャッチするプレーには魅了されました。



久しぶりの開催となった低学年部門は小学1～3年
が条件であり、非常に微笑ましく保護者、観客の笑顔も
多く見られました。一方の、小学生高学年部門は普段
より練習を
重ねている





一般部門は小学生時代の仲間が高校生になって久しぶりに出場するチームや複数小学校の出身者が集い、保護者も交えて構成されたチーム、さらにはこの大会出場がきっかけで2地区合同で初顔合わせのメンバーが集ったチームなどの新規組といくつかの常連組に香港を加えたチームが対戦しました。

各部門決勝は常連v s 常連、と充ちた結果でしたが、予選リーグ敗退の一般と低学年の両チームとおこなったフレンドマッチが「大変、楽しかった!」という評価を得たことはとても嬉しいことでした。



会場となる東京武道

館は「観戦する。」という側面で見たと、適度な距離感であることから非常に観やすい会場であることを実感するとともに、恒例開催地として今後も大切にしたい。と心より思いました。



なお、今大会は協会主催大会の中で最も多くのスポンサー企業様にご協力をいただいた大会となりました。スポンサーが充実することは、プレーヤーからの評価だけでなく、社会的な側面でも評価される方向にあるものと捉えることができると考えられ、とても喜ばしいことでした。スポンサーの各企業様には心より御礼申し上げます。ありがとうございました。



最後に反省点として早急な対策をすべき事

として線審を含めた審判員の質的な充実を今後の課題として肝に銘じ、報告いたします。

